

脳神経疾患の専門性を活かし、

“切れ目のない”

リハビリテーションで

地域医療に貢献する

脳卒中の急性期から、治療と並行してリハビリテーションを開始する。これこそが吉田病院のリハビリテーションにおける最大の特色です。脳機能の効果的な回復に向けて人的資源や最新設備をそろえ、脳卒中の患者様を全面的にバックアップしています。脳卒中におけるリハビリテーションも進歩しており、早期に適切なリハビリテーションが提供されることで、救うことができる患者さんが多くいます。今回は当院リハビリテーションの特長や取り組みについてお話させていただきます。

副院長 夏目 重厚

急性期から回復期、
退院後に至るまで、

切れ目のない

リハビリテーションが

強み

当院は脳神経外科からスタートした病院であり、この領域では日本トップクラス、つまり世界的にもトップクラスの技術を持つと自負しています。最大の特徴は、治療と並行して早期からリハビリテーションを開始すること。理学療法士や作業療法士、言語聴覚士、MSWなどの専門職が入院と同時に担当として付き、急性期段階からリハビリ後のスケジュールまで把握しています。超急性期から急性期、回復期、さらに退院後の通所リハビリテーション・訪問リハビリテーションまで、治療方針が分断されることのない体制としているのです。このような体制をとる病院が全国的に少ない中、理想的なリハビリテーションのあり方を盛り込んで構築したのが現在のシステムです。当院がモデルケースとなっており、これが全国に広がり、患者さんに役立てていただくことを目指しています。



回復の見込みがある人こそ 当院の技術・システムを フル活用して助けたい

当院では院長以下、「見捨てない医療」を目指し、どんな重症患者にも対応する用意があります。そのため、回復の可能性が低い患者さんが多く紹介される傾向があります。しかし、当院の強みである神経リハビリテーションの効果を発揮できるのは、重症の患者さんより、むしろ軽度から中等症程度で障害の少ない患者さんです。なお、回復期リハビリテーションで対象とするのは、当院で急性期治療を受けた人だけではありません。他院で急性期治療を受けた方も、回復期での脳卒中専門リハビリ、その後の再発予防を含めてお世話させていただきます。

どんな状態の方もしっかりと診たいのは山々ですが、地域医療に貢献するためには、当院の技術・

インタビュー全文をWEBページにて公開しています。
是非ご覧ください。

- ・あらゆる最新装置を導入して環境を整え、質の高いリハビリテーションを目指す
- ・回復の見込みがある人こそ、当院の技術・システムをフル活用して助けたい
- ・嚥下機能をしっかり評価し、十分な訓練を実施する体制を整備など



<https://www.yoshida-hp.or.jp/column/interview/index02.html>

システムによって治る患者さんを優先的に診ることも必要となります。軽度・中等度の方なら、当院では90%以上は自宅復帰が可能であり、回復の見込みのある人こそ効率良く治すことができるのです。治せる人をより良く、より早く治せるといふ当院の強みをご理解の上、フルに活用していただきたいと思います。

ただし、重症の脳卒中のうち、橋出血は早期にご紹介いただくメリットの多い疾患として位置づけています。出血開始時から四肢麻痺や意識障害があり、意思伝達が全く不可能なケースでも、車いすの操作や、眼球の動きやコンピュータを使った意思伝達が可能になるなど、回復が見込める例もあるからです。橋出血だと診断されたら目途がつき次第、早めにご相談ください。

メルマガ登録はこちら

吉田病院メールマガジン <https://www.yoshida-hp.or.jp/teki/newsletter.html>

日々の診療にお役立て頂ける脳疾患に関する専門的な情報や当院の取り組みにをメルマガにて配信しています。

※配信停止などはいつでも行って頂けます。



社会医療法人榮昌会
吉田病院 附属脳血管研究所

〒652-0803 兵庫県神戸市兵庫区大開通9丁目2-6
TEL:078-576-2773 FAX:078-577-2792
<http://www.yoshida-hp.or.jp/>

患者さんのご紹介や当院へのご意見などは地域医療連携室にお気軽にご連絡ください。

TEL:078-576-1520 (平日 9:00~16:30 土曜 9:00~12:00 ※祝祭日は除く)